

議会報告会報告書

開催日時	平成26年7月22日（火）午後7時 終了：午後8時30分	
開催場所	かわち保健センター 検診ルーム・機能訓練室	
対象団体	白山商工会青年部・女性部	
参加人数	18人	
班構成	A班	山口俊哉、永井徹史、宮中郁恵、岡本克行、寺越和洋 竹田伸弘、中西恵造
役割分担	リーダー：竹田、司会：宮中 報告：当初予算の主な事業－竹田、定例会会議概要－岡本 総務－永井、文福－中西、産建－寺越 記録：山口	
報告内容	平成26年度当初予算と主な事業、定例会会議等	
<p>(質疑応答)</p> <p>(質問1) 今年の4月から白山ろく振興課が北庁舎に移転し、本庁よりさらに遠くなった。どうして鶴来地域や白山ろく地域に移転できなかったのか。</p> <p>(答 弁) 議会全体で検討して、執行部に伝えていく。</p> <p>(質問2) 白山ろく地域に家を建てたいと思っているが、宅地が少ない状況である。ようやく探し当てた物件は、農業振興地域のため家を建てられなかった。土地利用を含め、若者が定住する制度の見直しをしてほしい。</p> <p>(答 弁) 地主や区長と相談して行政に要望していくことも大事である。また、空き家を利用することも可能ではないか。</p> <p>(質問3) 白山ろく地域でも最近では30度を超える日が多く、山麓なので涼しいということはない。学校は冷房が設置されていないので、子供たちの勉強の能率が上がらないと思う。学習環境を整えてほしい。</p> <p>(答 弁) 冷房がある学校とない学校の差が大きい。地区振興会や町内会からの要望にも入れてほしい。</p> <p>(質問4) あさがおテレビでジオパークや白山市のPRの番組など放送しているが、あさがおテレビと契約していなければ見ることはできない。これまで放送されたものを生かすことはできないか。</p> <p>(答 弁) ジオパークについては、副読本などを作成して認知度を高めており、子供たちへの教育の中でもジオパークを周知する機会が増えているので、そのような中で利活用ができればいいと思う。また、視点場などに案内看板だけでなく、映像でも周知も増やしつつあるので、ソフトの一つとして使用していくこともできるのではないかと思う。市の執行部にも話をしていきたい。なお、あさがおテレビは独立採算性で運営しており、著作権の関係もあり、活用には検討を要するのではないか。</p>		

(質問5) 白山ろく地域にある家屋を購入しリフォームをした。白山ろく地域に一生住む決意なので、購入代金は優遇措置で0円でもいいのではないか。また、リフォームの助成もなかった。このままでは過疎化は止められない。思い切った政策が必要ではないか。

(答 弁) 白山ろく地域だけの問題ではなく、白山市全体の深刻な問題である。定住空き家対策特別委員会を議会に設置したので、しっかりと提言をまとめていきたい。

(質問6) 白山ろく地域などの過疎地域に戻ってくる場合には、特別な施策が必要である。

(答 弁) 過疎化が進んでいる地域にはより大きい助成を考えてもいいと思う。

(質問7) 市外から居住する場合は助成金が交付されているが、市内転居では交付されない。以前は白山ろく地域の居住者にはさまざまな助成金が交付されていた。現在は若者たちが帰ってきたいけど、メリットがないため白山ろく地域を離れる。一里野では今年の9～11月に毎月長男が白山ろく地域を離れて結婚することを聞いている。早く対策を講じてほしい。

(答 弁) 同じ白山市なので、全体のバランスを見ながら、公平な政策という観点で統一しようとしている。白山ろく地域の地域性を考慮した支援の考え方が強くなると制度の拡充につながらない。

(質問8) 合併後に電話番号が変わった際には、大きなものに沿うしかないとの説明だった。同じように過疎地では、大きなものに沿っていくしかないのか。

(答 弁) 全国的にも過疎対策は難しいが、成功している地域もある。過疎の問題は地域力、魅力が大切。ここに住み続けたいという魅力ある地域をつくってほしい。

(質問9) 地域のために行政の支援もいるのではないか。例えば白山ろく地域に定住する方には500万円を支給するような大胆な施策が必要ではないか。

(答 弁) 地区、町会でも要望してほしい。議会としても委員会の中で協議して執行部に伝える。いろいろな方面から要望する必要がある。

備 考	
-----	--